

2018年度第1四半期決算説明カンファレンスコール（2018年11月9日開催）
およびアナリストミーティングの主な質疑応答（サマリー）

【1Q実績】

① 1Qの受注・売上・営業利益は会社計画どおりだったのか？

A: 受注は、前年度4Qからずれ込んだ中国向けの大型TV向けLCD製造装置の大口受注が決まり、それ以外にも概ね想定通りの着地で、前年同期並みの受注となりました。

売上も概ね計画通りでした。利益面では下期より上期が高めの計画だったので、それに対しては若干弱含んでいる面がありますが、全体的には大きな問題はないと考えています。

② 1Qの受注面で特筆すべきことがあれば教えてほしい。

A: 8月の決算説明会でもお話していましたが、大手ロジックラインにおける最先端微細化工程でのスパッタリング装置の受注が実現したことは、今後、メモリとロジックの両輪で成長を目指すための入り口切符を得て乗車することができたという意味で、今後に向けた意義は大きいと考えております。

③ 1QのFPDの受注高の用途別内訳は？

A: FPD関連の424億円の受注のうち、LCDが7割弱（大型が95%以上）、OLED関連が2割強、その他が1割強となりました。

④ 1Qの半導体電子部品の受注高の用途別内訳は？

A: 半導体電子部品関連の113億円の受注のうち、メモリ関連が4割弱、ロジックが1割弱、電子部品が2割強、パワー半導体が2割強、LEDが1割弱、実装が数%となりました。

⑤ コンポーネント関連の同業他社が苦戦している中、1Q受注でコンポーネントが伸びているのはなぜか？

A: 電子部品やFPD製造装置などセットメーカー向けの真空ポンプ、各種ポンプ、電源、計測器などの受注が1Qに集中した面があり、高い受注水準となりました。

【年間予想】

⑥ 年間予想に変更はないか？

A: 特に変更はありません。

【市場環境・今後の受注】

⑦ 次世代不揮発性メモリの今後の受注見込は？

A: 昨年は新ラインとして投資が集中しましたが、今年度は年初の想定通り、まとまった投資にはならないため、少し低めの数字になる見込みです。

⑧ FPD 製造装置市場について、中国での旺盛な設備投資により、今後、パネル供給過剰になるなどのリスク要因を指摘する声もあるがどのように考えているか？

A: 大型 TV 向け LCD 製造装置について、現時点では、中国の大手パネルメーカー各社の従来からの投資計画には大きな変更はないと聞いています。

スマートフォン向け OLED 製造装置については、プレミアムスマホの販売が伸びていないこともあって韓国メーカーの投資は一時的に抑えられていますが、中国ではむしろスマートフォンメーカーやパネルメーカーが OLED へのシフトを推進しており、投資計画に大きな変更はないと聞いています。

⑨ 韓国の半導体メーカーの DRAM 投資延期の影響はどうか？

A: DRAM については、期初の計画段階から、前期に比べ今期受注が低下することを織込んでおり、今のところ想定ラインで収まっていると考えています。今年度の半導体受注については、メモリの受注減を新たに参入するロジックの受注がカバーし、前年度比増加となる見込みです。

以上